

しんぶん赤旗2013年7月23日付主張

参院選での躍進 暴走に立ち向かう決意新たに

参院選の結果、日本共産党は比例代表で515万を上回る得票を得て5人が当選、選挙区でも東京、大阪、京都で議席を獲得しました。非改選の3議席とあわせると日本共産党は11議席になり、日本維新の会を上回り、参院での議案提出権を獲得しました。支持していただいた方、雨のなかも猛暑のなかも奮闘された方に、お礼申し上げます。選挙の結果、自民・公明の与党は参院でも過半数を超えました。安倍晋三政権の暴走に正面から立ち向かい、公約実現のために力を尽くす決意です。

対決し対案示す党として

参院選での日本共産党の躍進が、安倍政権の暴走にひるむことなく立ち向かい、経済政策でも、原発や憲法問題でも、抜本的な対案を示したことが国民に支持された結果であるのは明らかです。投票日に各マスメディアがおこなった投票所での出口調査でも、「政権批判票の受け皿」として日本共産党が有権者に評価されたことが浮き彫りになっています。

選挙終盤になってあわてて安倍政権の暴走を批判しても、阻止する足場を持たなかった民主党が大きく後退し、安倍政権を補完する役割があらわになった維新の会が伸び悩んだことを見ても、国民が安倍政権の暴走に不安を募らせ、それに立ち向かう力を待ち望んでいたことは明白です。

安倍政権与党の自民・公明の両党で76議席を獲得し、非改選とあわせ参院の過半数を獲得したからといって、国民が安倍政権の政策を支持したといえないことは議論の余地がありません。安倍首相は選挙中の訴えの大半を経済問題に費やしましたが、その内容は株価が上がったなどの手柄話で、国民が不安を募らせている雇用の改悪や消費税増税については語りません。原発の再稼働や憲法改悪についてはほとんどダンマリです。圧倒的多数の国民は原発の再稼働や憲法改悪を支持していません。安倍首相とその与党が選挙で勝ったからといって政策が信任されたようにいい、暴走を加速させれば、手痛いしっぺ返しを食うことは間違いありません。



先の東京都議選に続く今回の参院選での日本共産党の躍進が、財界や巨大メディアが推進した日本共産党を国民の選択の外に置く「二大政党づくり」の策略や「第三極」キャンペーンなどを打ち破って実現したことは重要です。今回の参院選でもみんなの党などから「日本共産党は何でも反対」など根拠のない攻撃が加えられ、一部では日本共産党に議席を得させないための「票の取引」まで伝えられました。こうした「反共シフト」をも打ち破って日本共産党が躍進したこと自体、日本共産党こそが自民党と対峙（たいじ）する力を持っていることを示しています。

安倍政権の監視と運動を

自民党や公明党は今回の参院選を衆参の「ねじれ」を解消する選挙と位置づけましたが、もともと衆院での3分の2を超す議席自体、大政党に有利な小選挙区制でゆがめられた「虚構」です。参院選での自公の議席も1人区で議席を獲得したことが影響しています。

衆参で「ねじれ」は解消しても、国民の意思と国会の議席のねじれはいっそう大きくなっています。安倍政権への監視を強め、暴走を許さない国民のたたかいが、これからいっそう重要になります。

この「後援会ニュース」は、森本ふみお議員の
ブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見れます。

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

参議院選挙の結果について

日本共産党中央委員会常任幹部会 2013年7月22日

(1)

7月21日の参議院選挙で、日本共産党は、比例代表選挙での「5議席絶対確保」の目標を達成し、三つの選挙区で勝利して、改選前の3議席から8議席へ大躍進しました。参議院で非改選と合わせて11議席となり、議案提案権を得ることができました。これは、今後の国会活動にとって大きな意義をもつものです。

比例代表選挙の得票では515万4千票(9.68%)を獲得し、前回参院選の356万票を159万票、昨年の衆議院選挙の369万票を146万票、それぞれ上回りました。

選挙区選挙では東京(改選5)で12年ぶり、大阪(改選4)と京都(改選2)で15年ぶりに、それぞれ激戦を制して議席を回復しました。また、議席には結びつかなかったとはいえ、得票を大きく伸ばしたり、当選にあと一步と迫るなど、善戦・健闘した選挙区が多数生まれました。選挙区での得票総数は564万5千票(10.64%)で、前回比139万票増でした。わが党が推薦した沖縄選挙区(改選1)の糸数慶子氏は自民党にうち勝って当選をはたしました。

日本共産党にご支持をお寄せいただいた有権者のみなさん、猛暑のなか日夜をわかつたご奮闘をいただいた支持者、後援会員のみなさん、党員のみなさんに心からお礼を申し上げます。

(2)

国政選挙で、日本共産党が議席を伸ばしたのは、1998年の参院選以来、15年ぶりの出来事となりました。

わが党はこれまで、1970年代、90年代後半の2回にわたって、国会の議席の大幅増を果たすなど、“躍進の波”をつくりだしてきました。6月の東京都議選挙につづく今回の躍進は、“第3の躍進の波”の始まりともいえるべき歴史的意義をもつものです。

これらは、この10年来の「二大政党づくり」など強力な反共シフトに抗しての、全党の長年の不屈の活動の積み重ねが実ったものにほかなりません。この活動を担ってきた全党の同志のみなさんに敬意を表するとともに、開始された躍進の流れをさらに大きく発展させるため、新たな奮闘を呼びかけます。



(3)

日本共産党は、選挙戦において、安倍政権の暴走に正面から対決するとともに、「国民が主人公」の新しい政治をめざす抜本的対案を、景気・経済、原発、憲法、外交の各分野で、「四つの転換」として提示してたたかいました。

選挙戦全体では、自民党・公明党の与党が過半数を獲得しました。選挙戦の結果、「衆参のねじれが解消した」といわれますが、国民多数の声と自民党政治との「ねじれ」はいっそう深刻になっています。消費税増税、原発再稼働、憲法9条改定、TPP問題、米軍基地問題など、直面する国政の重要課題をめぐって、安倍内閣の姿勢と国民との矛盾は、いよいよ深まり、激動的な危機が進展しているかざるをえないでしょう。

そうした新たな情勢のもとで、日本共産党が果たすべき役割はきわめて大きなものがあります。わが党は、選挙戦で訴えた「四つの転換」をはじめ、掲げた公約実現のために、国会で得た新しい地歩も最大限に活用し、さまざまな分野の国民運動との共同を強め、全力をあげて奮闘するものです。

(4)

今回の結果は、この数年来とりくんできた党員拡大を根幹とする党勢拡大の運動、「綱領・古典の連続教室」、職場支部や青年・学生分野での活動強化のためのとりくみなど、強く大きな党をつくる努力が、第一歩ではありますが実を結んだものです。同時に、情勢にふさわしい党づくりという点では、さらに大きな探究と努力が求められます。

この点で、参院選での躍進が、強く大きな党をつくる歴史的チャンスを開くものとなったことは、きわめて重要です。今回の躍進によって、わが党への関心や期待を強めている人々が、大きく広がっていることは、間違いありません。そういう幅広い国民のなかで、党綱領と日本の前途を語るとりくみをさらに発展させながら、強く大きな党をつくる活動に、新たな決意をもって、ただちに足を踏み出そうではありませんか。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。